

美作自然農塾配付資料

自然農への誘い

脇田 忍

みなさまこんにちは。建部町にて、自然農で百姓をしております、脇田忍と申します。今回は美作自然農塾のご紹介も兼ねて、私の生業であります自然農について、お話しさせていただきたいと思います。

自然の中では全てがつながっていて、不要ないのちの一つもない。全てのいのちが自らを生きると共に、他のいのちを生かしている。この認識に立ったとき、あるべき農のあり様として自然農が結論づけられます。耕してはならない。なぜなら、それはその場のあらゆるいのちを断ち切るからだから。断ち切ることを止めたとき、この野菜は他のいのちによって生かされる存在となる。他に生かされているこの野菜に肥料はいらなくなる。そうして育った野菜は、過不足なく与えられ、過不足なく成長した全き存在である故に健全で、他に冒されることなく、農薬は必要でなくなる。

耕さず、農薬、肥料は必要とせず、草や虫を敵とすることがない。

自然農。この方法によって、私は他に何ら問題を招くことなく、私が生きるための食物を手にすることが出来る。

この気付きは、私が生きる上での大きな救いとなり、希望となりました。

自然農には特殊な技術は必要ありません。大きな機械も必要なく、せいぜい鎌や鍬などの手道具だけで、作業は全て手作業で済みます。体の弱い方でも十分行うことが出来ます。私自身もけして丈夫な方ではありませんが、からだの負担になるようなこともなく、十分に働くことが出来ています。

その代わり、いのちの世界を観て、それをあるがままに感じ取る力と、感じたものをいのちの舞台において、他のいのちが受け入れられる形で表現する力が求められます。絶え間なく変化し続ける田畑の中で、その大きな営みと一体となれること。個々のいのちの営みにひたすらに応じられること。そしていのちとの関わり方、手の貸し方を、時を間違えずに、過不足無く、的確に行える私であること。そのための智力、能力は、実は全てのひとに生まれながらにして本来より備わっているものなのです。ただ、私も含め多くのひとは、自然から離れた生活を送る中で、その能力を眠らせてしまっているだけなのです。

今ほどいのちの視点に立ち返ることが求められている時代はありません。いのちの世界は私たちの関わる全ての分野に通じる世界です。なぜなら、私たち自身がいのちであるから。

今、自然農を求める方が増えつつあるのは、自然農で正しい答えを出せる私は、ひととしても正しい答えを出せる。そのことを敏感に感じ取っていらっしゃるからではないでしょうか。

生活における、あるいは人生における様々な場面で、私たちが行う対応の多くは、あちらを立てればこちらが立たずの2元の世界の対応です。何かを得ようとすれば、他に問題を招かざるを得ない。薬を飲めば副作用がある。ゆとり教育をすれば学力が低下する。それが当たり前で、そういうものなのだと思います。しかし本当はそうではありません。それを越えたところに絶対の世界があります。そこであちらを立てればこちらも立つ。一つの絶対の答えが、他に何ら問題を招くことのない真の答えが、存在する世界です。

いのちの世界で一つの答えを出せる私はきっと、生活の、あるいは人生の、様々な場面で正しい答えを出せることでしょう。

私もまだまだ絶対界にはほど遠く、日々、相対の世界に落ち、不安に落ちることもしばしばです。

この度、賢治の楽交の前原ひろみさんより、自然農を教えてみませんかとのお話をいただいたとき、自分の能力不足を痛感する故に、大いに迷いました。でもこの素晴らしい世界を一人でも多くの方に伝えたい。未熟であっても、自然農の百姓として、今私の知っていることをお伝えすることは私の役割かも知れない。そんな思いになり、私自身も一塾生として学んでゆくつもりでお引き受け致しました。

私もまだまだ道半ばです。でもこれだけは言えるのです。自然農の世界は素晴らしい。

美作自然農塾では、まだ農業に触れたことのない方も含め、自然農で作物を作りたいという方が、実際に栽培するために必要ないくつかの事柄を、実演を交えてお伝えします。また、皆さんで言葉を交わしながら、言葉を通して自然農の世界を深めてゆく時間を大切にしています。私は講師という立場ですが、同時に塾生でもあります。私自身も大変大きな学びをいただいております。

自然の中にあって、この様に自然に何ら問題を招かない栽培の仕方、私たちは必要とする食物を手にすることが出来るのだ、ということを実際に体験していただけたらと思います。

この美しい美作の山里で、私たちと一緒に自然農を学んでみませんか。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

許可無き複製はご遠慮下さい。